

テーマ展「直弼発見！ 大老・井伊直弼の職務」展示リスト

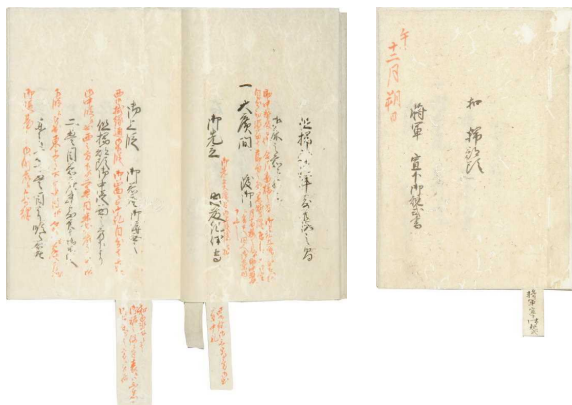
No.	指定	名称	年代	所蔵	内容
1 大老の毎日					
大老就任					
1	重文	いいなおすけたいろうしゅうにんせいしひかえ 井伊直弼大老就任誓詞控	安政5年(1858)4月25日	当館(彦根藩井伊家文書)	井伊直弼が江戸幕府の大老に就任した2日後、将軍に提出した誓詞の控
日々の出勤					
2	市指定	こうようかたひろく 公用方秘録	安政5年(1858)4月23日条	個人蔵(宇津木三右衛門家文書)	彦根藩士・宇津木六之丞が、直弼大老時代の事績をまとめた記録。直弼の大老の勤め方についての指示が書かれている。
3	重文	こうようかたひろく 公用方秘録	安政5年(1858)9月15日条	当館(彦根藩井伊家文書)	直弼の登城・退出の時刻が記載されている。
4	重文	ながのよしときしよじょうあん 長野義言書状案	安政5年(1858)6月10日頃	当館(彦根藩井伊家文書)	直弼について、江戸城から帰邸後も諸大名との面会が続き、夜に睡眠の時間も無いくらいだ、と伝えている。
5	重文	やくしじもとぎねしよじょうべつし 薬師寺元真書状別紙	安政5年(1858)7月11日	当館(彦根藩井伊家文書)	幕臣の薬師寺元真が、直弼がこのごろ夜間に江戸城からの退出していることを心配しているもの
江戸城本丸御殿					
6	重文	えどごてんず 江戸御殿図	寛政8年(1796)	当館(彦根藩井伊家文書)	江戸城で政治が行われた表御殿の図
2 江戸城での儀式					
7	重文	じょうちゅうしきにつき 城中式日記	安政6年(1859)正月1日条	当館(彦根藩井伊家文書)	江戸城での正月の儀式の次第を記した文書
8	重文	城中式日記	安政5年(1858)9月7日条	当館(彦根藩井伊家文書)	臨時の儀式(13代將軍徳川家定の葬送が終わったことに伴う將軍への御目見)の様子を記す。
9	重文	城中式日記	安政5年(1858)8月1日条	当館(彦根藩井伊家文書)	八朔の儀式の様子を記す。
10	重文	城中式日記	安政7年(1860)3月3日条	当館(彦根藩井伊家文書)	上巳の儀式の様子を記す。桜田門外の変の当日のもので、実際には出席しなかった。
11	重文	城中式日記	安政5年(1858)12月1日条	当館(彦根藩井伊家文書)	※別紙参照
3 政務の進め方					
書類の確認					
12	重文	まなべあきかつしよじょう 間部詮勝書状	安政5年(1858)	当館(彦根藩井伊家文書)	間部詮勝が直弼に対し、廻した書類についての回答を催促する手紙
13	重文	いいなおすけこうたつしよ 井伊直弼口達書	安政6年(1859)正月24日	当館(彦根藩井伊家文書)	直弼が側近の宇津木六之丞に、金銀吹き替えについての書類の控えがあったら提出するように求めている。
老中との相談					
14	重文	まなべあきかつしよじょう 間部詮勝書状	安政5年(1858)7月	当館(彦根藩井伊家文書)	幕府役人佐々木頭発の屋敷地について相談したいと伝える。
15	重文	ささきあきのりがんしよ 佐々木頭発願書	安政5年(1858)午7月	当館(彦根藩井伊家文書)	No. 14の添付資料。佐々木頭発から提出された願書
16	重文	ささきあきのりないりようかがい 佐々木頭発内慮窺書	安政5年(1858)7月	当館(彦根藩井伊家文書)	松平忠固宛
政務遂行の具体例					
17	重文	くげひろちかしよじょう 久世広周書状	安政5年(1858)6月21日	当館(彦根藩井伊家文書)	老中の登城差し止めに関して交わされた7通の手紙のうち、2通目
18	重文	くげひろちかしよじょうべつし 久世広周書状別紙	安政5年(1858)6月21日	当館(彦根藩井伊家文書)	同上2通目の別紙
19	重文	いいなおすけしよじょうあん 井伊直弼書状案	安政5年(1858)6月21日	当館(彦根藩井伊家文書)	同上3通目 ※別紙参照
20	重文	いいなおすけたつしよあん 井伊直弼達書案	安政5年(1858)6月21日	当館(彦根藩井伊家文書)	同上4通目
21	重文	まつだいらただかたうけしよ 松平忠固請書	安政5年(1858)6月21日	当館(彦根藩井伊家文書)	同上6通目
22	重文	ほつたまさしよしよ 堀田正睦請書	安政5年(1858)6月21日	当館(彦根藩井伊家文書)	同上7通目
23	重文	かえいしんこくこうしちまながちちやうあたりそとさくらだえ 嘉永新刻麴町永田町辺外桜田 絵図	嘉永3年(1850)	当館(彦根藩井伊家文書)	
24	重文	かえいしんこくこうさくらだかんだばしなだいまようこうじ 嘉永新刻内桜田神田橋内大名 小路絵図	嘉永2年(1849)3月	当館(彦根藩井伊家文書)	江戸の切絵図。老中の登城差し止めに関して7通の手紙を交わした大名たちの屋敷を含むもの
25	重文	かえいしんこくこうしちまながちちやうあたりそとさくらだえ 嘉永新刻飯田町駿河台小川町 絵図	嘉永3年(1850)	当館(彦根藩井伊家文書)	
直弼の働き方					
26	重文	いいなおすけひはんかじょうつし 井伊直弼批判箇条写	安政6年(1859)8月	当館(彦根藩井伊家文書)	※別紙参照

写真解説

- 1 ^{じょうちゆうしきにつき} 城中式日記 1点 【展示リスト11】
縦25.0cm 横17.2cm 安政5年(1858)12月1日条
当館蔵(彦根藩井伊家文書)

直弼大老時代の江戸城の儀式の進行を詳細に記した文書です。直弼は、大老になり江戸城の儀式に主催者側として出席するようになってからは、幕府から事前にこの文書をもらうようになりました。直弼の側では、これにさらに赤字で情報を書き足しています。

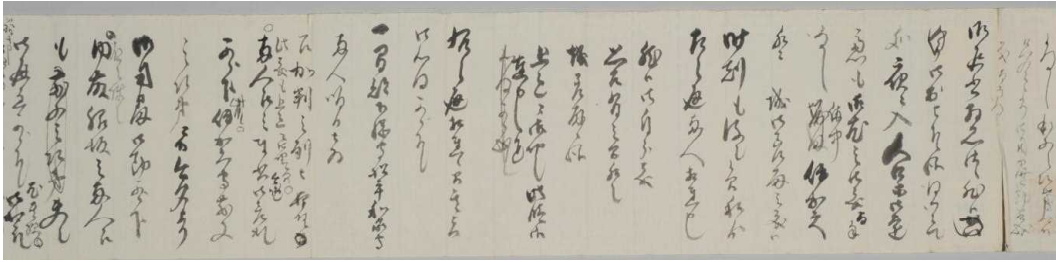
写真の箇所には、14代将軍徳川家茂が天皇の使者から征夷大將軍の官職を受けた安政5年(1858)12月1日の将軍宣下の儀式について書かれています。江戸城大広間での直弼の着座位置は、大広間の中段西側下から二畳目という細かさで記録されています。また、着座の前に、大広間の下段で将軍の正面を向いて「中礼」をすることが、赤字で書き足されています。幕府儀式における大老の所作や動きが分かる興味深い史料です。



- 2 ^{い い なおすけしよじょうあん} 井伊直弼書状案 ^{く ぜ ひろちかあて} 久世広周宛 1点 【展示リスト19】
縦16.0cm 横106.0cm 安政5年(1858)6月21日
当館蔵(彦根藩井伊家文書)

安政5年6月21日、直弼は、幕閣を固めるために、自らと対立する幕府老中・堀田正睦^{ほつ た まさよし}と松平忠固^{まつだいらただかた}の登城を差し止めました。これを実行するまでには、将軍・徳川家定^{とくがわいえさだ}の上意を聞き、また、担当の老中の久世広周^{く ぜ ひろちか}と相談するという手順を経っていました。この件に関わって7通の手紙が一夜のうちに取り交わされました。

この書状はその中の1通の下書きで、堀田・松平への登城差し止めの上意の伝達方法について意見を述べた久世からの手紙に対する、直弼の返書です。久世は、今日は堀田・松平両名に明日の登城を見合わせるようにとだけ伝え、その上で明日彼らから幕府へ、将軍の上意の内容について尋ねさせるようにする、という提案をしました。それに対し直弼は、直弼からすぐに登城差し止めの上意を通達する、と決めたことをこの手紙で久世に伝えています。意見を聞くとともに、直弼自身でも考えて対処法を考えていました。



(部分)

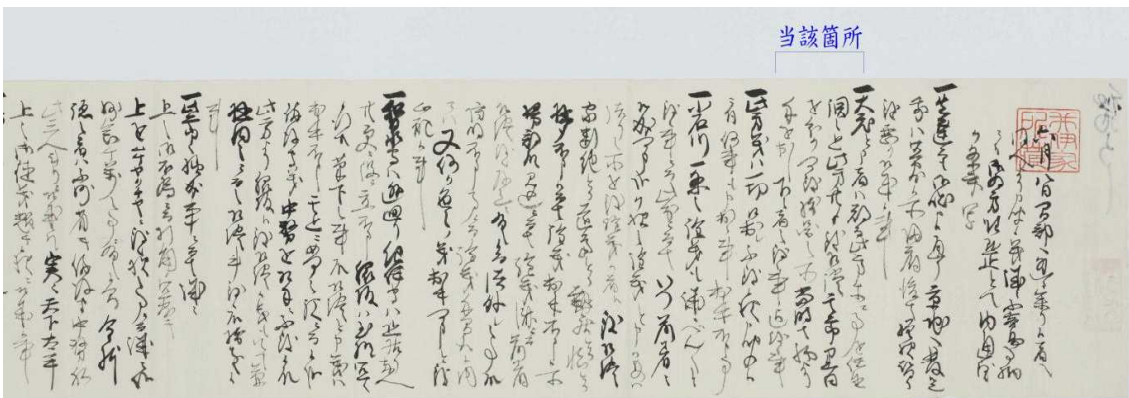
3 井伊直弼批判箇条写 1点 【展示リスト26】

縦16.0cm 横143.5cm 安政6年(1859)8月

当館蔵(彦根藩井伊家文書)

直弼に対する老中・間部詮勝の悪口を聞いた人が、悪口の内容を直弼に書面で内々に知らせ、直弼がそれを書き写したものです。この史料と同一内容のものが老中・松平乗全まつだいらのりやすに宛てた直弼の手紙に添えられていたと推測されます。

このなかに、大老というものは、老中などに全て任せておいて、相談の時などに指図するものであるのに、直弼は初めから手を出して、下の者がすることまでしている、という批判があります。この点について、史料では批判的に述べられていますが、生真面目な性格が大老としての働き方にも現れています。



(部分)